



市長 からの 手紙

55 オリンピックに向けて

時がたつのは早いもので、2020年の東京オリンピック・パラリンピックまであと4年と少しになりました。川越市は、市内の霞ヶ関カンツリー倶楽部でゴルフ競技が開催される予定となった直後から、これを千載一遇の好機と考え、準備を進めています。

平成28年度には次のような事業を進めるための予算を計上いたしました。

競技会場への最寄駅となる笠幡駅利用者の安全確保と利便性向上のため、駅前広場および周辺アクセス道路の歩道を整備する事業、圏央鶴ヶ島インターと競技会場を連絡する南北の幹線道路である市道0074号線の拡幅整備、競技会場周辺の生活道路や河川を整備する事業などです。

また、競技会場に隣接している旧西清掃センターの解体工事を実施し、オリンピック開催時にはその跡地を観客の輸送の拠点としての活用を見込んでいます。

さらに、松江町交差点改良事業を行うほか、霞ヶ関小(東)交差点、笠幡団地入口交差点についても、交通円滑化を図るための改良事業を行う方向で、県と共同して事業を進めています。

ソフト面では、昨年大変好評であったオリンピックコンサートを本年も実施します。また、学校でオリンピック(オリンピック出場経験アスリート)の講義やスポーツ指導を行う事業も予定しています。

事前キャンプの誘致に向けて、川越運動公園内の陸上競技場の改修整備を行います。大会組織委員会が作成する候補地ガイドへの掲載などは既に進めておりますが、キャンプ地は自治体と外国のチームとの直接交渉によって決まることが多いという実情から、国内外の競技団体等とのつながりを探している状況です。

「オリンピック開催中のボランティアとして協力したい」という申し出をいただくことがあります。大変ありがたいことですが、現時点では、地元自治体が具体的にどのような役割を担うのか不明な状態でありますので、いましばらくお待ちいただきたいと思っております。

今後は、川越を訪れてくださる方への「おもてなし」の工夫をしていかなければなりません。これからも、市民の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

川越市長 川合善明



環境にやさしい行動を目指して13
「かわごえカフェ2016」
環境政策課 ☎224・5866

2月20日、南公民館を会場に「かわごえカフェ2016」が開催されました。これは、本市の望ましい環境像を実現するために設立された、市民、事業者、民間団体および市のパートナーシップ組織である「かわごえ環境ネット」が、一年間の活動発表と交流の場である「かわごえ環境フォーラム」の一環として行ったワークショップです。

会場には川越を愛する56人もの参加者が集い、基調講演の後、4人ほどのグループになってテーブルを囲みました。さまざまな世代の参加者は、カフェにいるようにくつろいで「自然と街が調和する川越の『こまったら』を『ステキ』」にかえよう」をテーマに、住民や観光客が感じている川越の困ったこと、それをどう変えていけばよいかについて話し合いました。

まための時間には「観光客のトイレ問題など、見えていなかった問題点が分かった」「農業体験や川遊びといった、自然を取り入れた魅力づくりなど、自分だけでは思いつかなかった意見が聞けた」等、喜びの声を聞くことができました。

環境に対する関心を高めるよい機会となった「かわごえカフェ」。今後も市では、市民、事業者および民間団体の皆さんと意見を交換し、互いに協力し合える場を作っていくと考えています。